

Cente Technical Information

発行番号	001-0051	Rev	第1版	発行日	2011/03/10
題名	メタデータ保護機能を有効にして、既存ファイルのクラスタチェーンが増える書き込みを行った時の不具合について				
情報分類	技術情報				
適用製品	・Cente FileSystem Ver6.00				
影響API	fwrite, fputc, fputs, chg_filelen				
関連資料	なし				
<p>【現象】 メタデータ保護機能を有効にして以下の条件で書き込みを行っている時に電源断が起こると、修復時に修復処理が正常に行えません。 ・既存ファイルを'r+', 'a', 'a+'でオープンする ・上記モードでオープンしたファイルに対してクラスタチェーンが増える書き込みを行う</p> <p>修復が行えないと破損クラスタが増え、早期にディスクフル状態になる可能性があります。 尚、ファイルを新規作成後影響APIを実行した場合は本現象は発生しません。</p> <p>【原因】 メタデータ保護機能を有効にして影響APIを実行時すると、オープンしているファイルの最終クラスタ番号をバックアップファイルに保存し、書き込み時に電源断が起こると修復時にバックアップファイルに保存されている最終クラスタ番号を元に修復を行います。 但し、既存ファイルをオープンした時はバックアップファイルにファイルの最終クラスタ番号を保存していなかったため、電源断が起こると修復が正常に行えませんでした。</p> <p>【回避方法】 ■運用での回避方法 ・追加書き込みを行う場合は、新規にファイルを作成しファイルデータを新規に作成したファイルにコピー後追加でデータを書き込んでください。 (ファイルを新規作成後影響APIを実行した場合は本現象は発生しません。) ・メタデータ保護機能を使用しないでください。 ・Cente FileSystemのチェックディスクAPI chk_dsk()を使用して、FAT領域の修復を行ってください。</p>					

■プログラム修正による回避方法

fs_ansi.c, fs_journal.c, fs_original.c, fs_journal.hに修正が必要です。

修正方法につきましては、弊社サポートまでお問い合わせ下さい。

以上